



上越市【新潟県】 歴史文化基本構想



■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：194,856人 ■ 面積：974km²
■ 担当課：上越市教育委員会文化行政課（平成30年3月現在）

平成17年、14市町村が合併し、広大な〈新上越市〉が誕生した。当市には、海・山・川と多様な自然環境がそろい、縄文時代から現在まで連続と続く長い歴史があり、そこから、たくさんのたからもの（文化財）が生まれ、残されている。たくさんの文化財を後世に伝えるため、文化財保護に関する考え方を〈新上越市〉の全域で統一し、「歴史文化」の範囲を市域全域として歴史文化基本構想にまとめた。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

豊かな自然環境、越後の政治・経済・文化の中心、
交通・流通の要所、頸城は一つなり、地域づくり

課題

- ・従来の文化財保護だけでなく、構想を行政全体に反映させる必要性
- ・地域や文化財に携わる人や活動への支援や行政との協働の仕組み作り

保存活用方針

- ・地域の人々が自分の言葉で地域を語る
ことができる社会を目指す
- ・文化財とともに文化財を守る人及び
地域を守り育てる社会を目指す

保存活用のための取り組み

中核的文化財「吹上遺跡・釜蓋遺跡」の保存活用

構想で優先的に整備する対象とした吹上遺跡・釜蓋遺跡について、「保存活用計画」、整備活用の「基本計画」、「基本設計」、「実施設計」をまとめ、釜蓋遺跡公園を整備した。釜蓋遺跡ガイドンを拠点に、発掘調査・展示・体験学習等を展開している。



文化財の保存 「確実な次世代への継承」

地域の方々から話を聞きながら、高い専門性と広い視野を持つ「文化財調査審議会」と連携し、未指定文化財の把握調査を継続。平成23年3月に策定した「上越市文化財の指定に関する基準」に基づき、文化財の指定を行っている。



人材育成 「確実にバトンをつなぐ」

上越市教育委員会で実施している「謙信KIDSプロジェクト」など、市内の子ども達を対象とした様々な体験活動が行われている。また、公民館活動を通して、子どもから大人まで、地域を知り、郷土愛を育む活動が行われている。



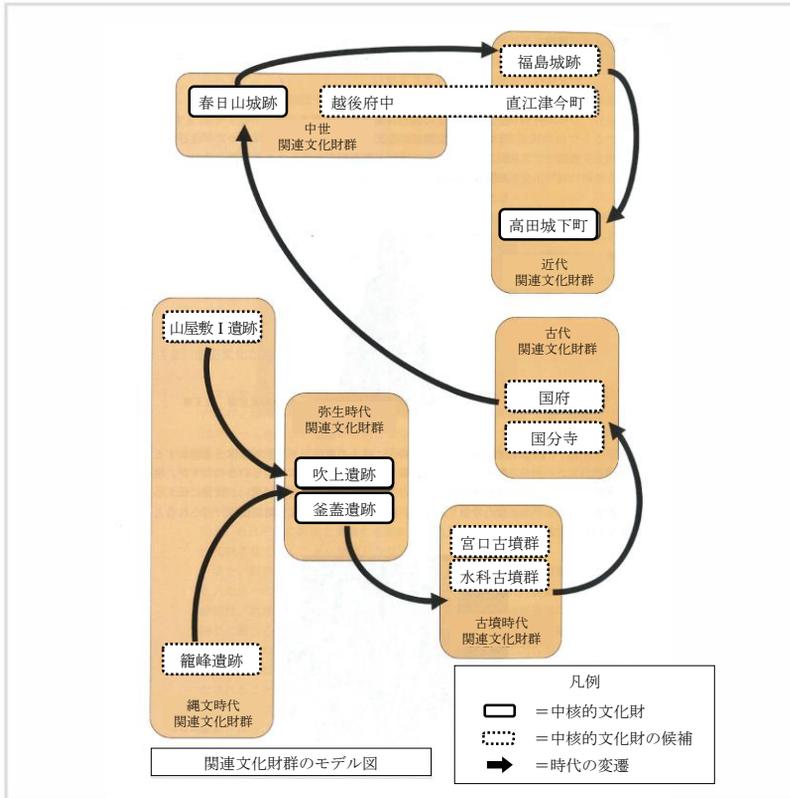
市民協働で行う「活かした文化財」の保存活用

国史跡春日山城跡では、地元の春日山城跡保存整備促進協議会等、地域の方々との協働で環境整備、保存活用を行っている。例えば、城跡の草刈は、平坦面を地元の方々が、急斜面を行政が業者委託するなど、役割分担等を話し合いながら行っている。





関連文化財群



上越市は、各時代の権力者の交代に伴い、その拠点とする場所が変わり、その都度、政治・経済・文化の中心地が移動する歴史的特徴がある。そのため、各時代の拠点となった場所ごとに独自の歴史文化がある。歴史文化基本構想では、各時代の拠点となった場所の核となる文化財を「中核的文化財」とし、それと関係する文化財の集合体を「関連文化財群」と設定した。

ストーリー

- ① 原始～古代「吹上・釜蓋遺跡」
- ② 中世「春日山城跡」
- ③ 近世～近代「高田城下町と直江津今町」



策定後の成果（見込まれる効果）

① 釜蓋遺跡公園の整備・活用

中核的文化財のうち、原始～古代の「吹上遺跡・釜蓋遺跡」を優先的に整備する必要がある文化財群として位置付け、平成27年4月、上越妙高駅前に釜蓋遺跡公園をオープンした。ガイダンス施設を拠点に吹上・釜蓋遺跡応援団が中心となり、史跡の謎や魅力を発信している。上越市の歴史ストーリーの出発点としての役割を担っている。



② 地域の宝を子供たちへ

市指定文化財の「お諏訪さんの大ケヤキ」では、毎年地元町内会が、隣接する小学校の5年生と、ケヤキの施肥活動を行っている。「今年も大ケヤキが元気なのは、今の6年生のおかげだよ」などと言葉をかけながら、地域の人たちが自分の言葉で地域の歴史文化を語る様子が見られる。このような活動が、指定の有無に関わらず市内で行われている。



③ 市民協働の春日山城跡の活動

中核的文化財のうち、中世の「春日山城跡」では、春日山城跡保存整備促進協議会をはじめ、多くの市民の方々が、「謙信公の春日山」を後世に継承するため、環境整備活動等に取り組んでいる。活動には地元の小中学生も参加し、構想で目標とする「文化財とともに文化財を守る人及び地域を育む」取り組みが、地域の方の手で行われている。

